平成２１年度学校経営計画表

1　学校の現況

学校番号	７５	学校名	県立 筑波 高等学校	課程	全日制	学校長名	倉田　博夫
教頭名	小泉不二男					事務（室）長名	岡野　照子

教職員数	教諭	２６	養護教諭	１	常勤講師	２	非常勤講師	２	実習教諭，実習講師，実習助手	１	事務職員	２	技術職員等	３	計	４０

生徒数	小学科	１年		２年		３年		４年		合計		合計クラス数
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
	普通科	６８	６８	４７	６９	４３	６１			１５８	１９８	１２
	科											

2　目指す学校像

1　教職員と生徒の信頼関係を深め，心のふれ合う学年，ホームルーム運営を推進し，本校の教育実践目標である「正しい判断」及び「自主的行動」のできる生徒の育成を積極的に推進する学校

2　生徒一人一人が各教科・科目の学習や類型の適切な選択等をとおして，個性や能力の伸張と確かな学力を身につけることができる学校

3　他を思いやる心や感動する心等の豊かな人間性とたくましく生きるための健康や体力をはぐくむことができる学校

4　進路適性理解や就業体験等を通して職業観・勤労観を育て，一人一人の生徒の特性等に応じた進路実現を図るとともに，生涯学習社会の変化に適切に対応できる資質能力（生きる力）をもった有用な社会人を目指し，地域に期待される生徒を育てる学校

3　現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	基礎学力育成のため、各学年が週１回小テストを水曜日の放課後に実施している。少しずつだが成果がみられる。学習意欲の高い生徒や進学希望の生徒に対しては，学力向上を目指して実力養成セミナーを実施している。	学習意欲に差のある中で，一人一人に対応した，学習指導の工夫改善と評価方法の改善をどう進めるか。
進路指導	生徒の進路希望が多様化しており，定期的な職業選択のためのガイダンスや模擬試験を実施により，早い時期からの進路意識の高揚が望まれる。	インターンシップ等を通して，正しい勤労観・職業観の育成を図れるか。一人一人の能力と適性にあった進路指導をどう進めるか。
生徒指導	基本的生活習慣の指導を継続して行い，頭髪・遅刻の指導に一定の成果をあげた。服装（スカート）・ピアス等，マナーについては，指導が徹底しない生徒も見られた。	登下校時指導及び巡回指導や学年指導を通して，規律ある生活と服装・頭髪指導の充実を図る。（ピアスや化粧の指導）
特別活動	学校行事について，生徒会や実行委員会による生徒主体の運営が実現しつつあるが，各種委員会活動や部活動については教員主導型であり，部活動への加入率も低い。	自主的な生徒会活動及び部活動の活性化を促進できるか。

4　中期的目標

１　学習指導の徹底強化を図り，生徒の学習への興味関心を引き出しきめ細かな指導を行い，成績不振による中途退学者を５人以内，転学者を３名以内にする。 ２　正しい制服着用の指導を徹底する。また，「心の教育」の充実を図り，生徒指導処置を受ける生徒を３０名以内とする。中途退学者の中には，入学前に引きこもりや不登校の経験を持つ生徒もあり，スクールカウンセラーを活用して「心のケア」を充実させる。 ３　４年制大学，短期大学との連携を強化し，特に国立大学を含めて４年制大学への進学者を２０名に増加させるように進学指導を充実させる。 進学者の増加には，小論文指導の充実徹底を図ることが大切であるので，小論文委員会のなお一層の活性化を図る。 ４　部活動への加入率２５％を目指して，顧問の適切な配置と部活動関係施設の充実，諸費用等のバックアップ体制を確立し，部活動の活性化を図る。

5　本年度の重点目標

重　点　項　目	重　　点　　目　　標
基礎学力の向上及び各種検定試験の奨励による学習意欲の増進	①　生徒の能力に応じたきめ細かな個別指導を実施し，放課後等の補充指導を充実させ，成績不振者の減少を図る。 ②　評価方法の見直しや各教科の副教材等の選定及び開発の工夫改善に努め，生徒の学習意欲を喚起する。また，効果的な授業を実践している教員の指導方法等を全体のものとなるよう校内研修会を充実させる。 ③　英語検定・漢字検定等の意義等を理解させ，取得のための受験準備の過程で教科学習への意欲を増進し，併せて一般常識テストを活用し，学習の習慣化を図る。 ④　検定合格の達成感を抱かせるとともに，新たな目標の動機付けを行い，学習成果の向上を図る。 ⑤　授業填補により授業時数の確保に努め，宿題や小テストを利用して到達度を確認し，家庭学習の動機付けと習慣化を図る。
類型の特性を活用した進学可能な学力養成	①　進学コースでの数学は文系・理系に分け，各々の特性を生かした計画的・継続的な進学課外を実施する。 ②　生徒の進路希望に適切に対応した教育課程を編成し，より効果的な進路指導を行う。 ③　１年次から小論文指導を定期的に行い，推薦入試における論文作成力を養成する。
職業観・勤労観の育成と充実した進路指導	①　生徒の勤労観・職業観の育成を目指し， インターンシップや「進路の手引き」を活用したＬＨＲを計画的に実施する。 ②　自己の進路適性理解に向けた進路講演会，進路関係教材等の利用，卒業生による体験発表等を積極的に行う。 ③　各大学，短大との連携と各企業への訪問等を積極的に行う。

重　点　項　目	重　　点　　目　　標
基本的生活習慣の育成と部活動の活性化による人材の育成	①　定期検査，校門指導や巡回指導を通して適正な服装容儀指導の充実を図る。 ②　全職員が指導内容に関して，共通理解と共同歩調を基盤とした指導を徹底する。 ③　登校時指導，巡回指導，学年集会・全校集会の指導を徹底し，度重なる違反者に対しては保護者との連携を密にするとともに協力を要請し，学校・家庭が一致協力して再発防止に努める。 ④　読書指導や学校集会時を活用し，生徒自身が「人間としての在り方生き方」を自己認識できる指導を行い，生徒の本分を弁えさせるような工夫改善に努める。 ⑤　真摯な部活動を通して責任感や自立心，忍耐力を養い，規範意識を基盤とした自主的活動ができる人材を育成する。
豊かな心の育成とカウンセリングの充実	①　読書指導や挨拶運動，密度の濃い学校行事を通して学校への帰属意識を深める。 ②　地域社会の諸団体と連携し，ボランティア活動等の体験的な学習を推進し，豊かな心と規範意識の高揚に努める。 ③　生徒会活動や特色ある学校行事を通して，郷土を愛する心と愛校心を育成する。 ④　校舎内外の美化に努め，清楚な学習環境を維持することにより生徒の豊かな情操を育み，環境美化の心を養う。 ⑤　カウンセリングの定期的実施により問題を抱えている生徒の学校生活への適応を図り，校内研修会の実施と支援体制づくりを推進する。 ⑥　１年次に「道徳」の授業を通して，生徒の発達段階に応じた人間としての在り方生き方に関する指導を行う。
家庭・地域社会との連携を図るＰＴＡ活動	①　卒業生の進路状況や在校生の進路希望状況，学校行事や部活動の成果等をＰＴＡ会報やＨＰにより地元の小中学校等に情報を発信し，特色ある学校づくりについて地域社会の理解を深め協力体制をつくる。 ② 学校評議員等の意見や助言を尊重し，学校教育体制の見直し・再点検を積極的に実施する。